

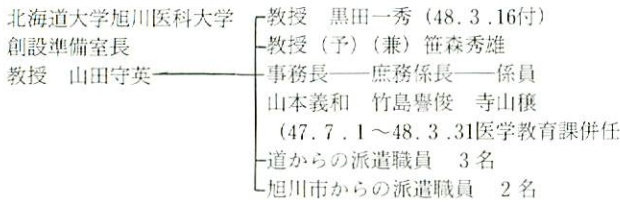
60 旭川医科大学の組織の沿革

◎昭和47年7月1日

北海道大学に、旭川医科大学創設準備室が設置された。

定員—教授2名、事務官3名

教授1名は学長予定者、1名は病院長予定者事務官は事務長、庶務係長、係員の3名、他に教授予定者（北大文助教授）1名が業務、更に北海道から3名、旭川市から2名の派遣職員が配置された。



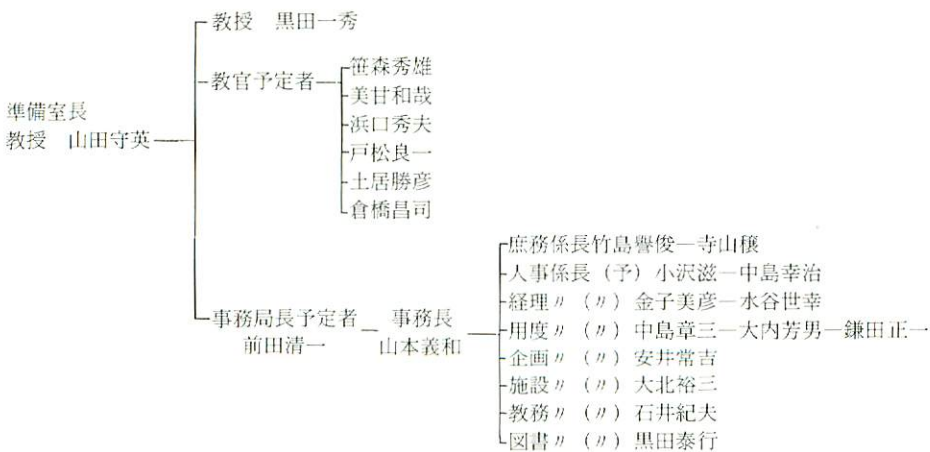
◎昭和48年4月1日

創設準備室を旭川市北門町9丁目（北海道教育大学旭川分校附属旭川小学校旧校舎）に移転した。

4月1日付けで官房付となった事務局長予定者が創設準備室に併任され旭川に赴任した。準備要員として当初の人員の他に各課の係長予定者7名と係員3名が発令され、運転手1名が現地採用された。定員は北海道大学の定員で措置。

教官予定者のうち、外国から招へいした者ですでに帰国していたもの3名及び国内在住者のうち、すでに職を辞していたもの2名については、事務官、技官として発令された。

道及び旭川市からの派遣職員は4月1日以降は準備事務への参加はない。



◎昭和48年9月29日

国立学校設置法が改正され旭川医科大学が設置された。

組織～一般教育等 9 学科目・講座 8 講座（基礎 5，臨床 3）・事務局 3 課 6 係・学生部 1 課 1 係・図書館 1 事務室 1 係

旭川市北門町 9 丁目の北海道教育大学旭川分校附属旭川学校旧校舎を仮校舎として使用。

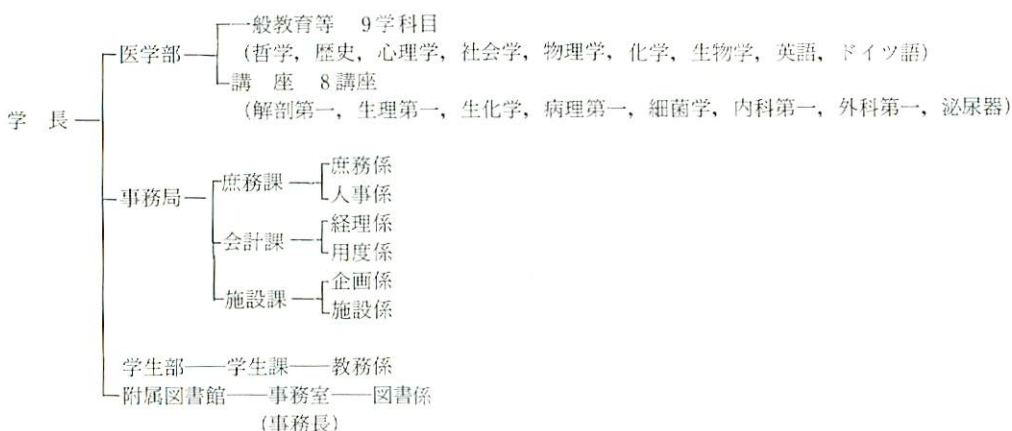
昭和48年11月5日第1回入学式を仮校舎において挙行

昭和48年11月20日開学記念祝典を開催

市立旭川総合病院の施設の一部を本学の暫定施設として使用——基礎臨床講座の研究室となる。

講座数は完成時で28（48年度 8，49年度 7，50年度 7，51年度 6）

※当初認められなかった 2 講座（生化学第二，脳神経外科学）は昭和52年度以降に増設される予定。



◎昭和49年度

学年進行による講座増 7（基礎 4，臨床 3）

学科目の新規増 1

事務局の整備 7 係増

附属病院創設準備のため事務局に主幹が置かれた。

副学長及び参与の設置：国立学校設置法施行規則の一部改正（昭和49年6月7日公布，同日施行）され新設医科大学に副学長と参与が置かれることになる。更に学生部が事務局に統合された。

副学長 2 名（1 名は教育・研究・厚生補導担当，1 名は医療担当）

参 与 5 名

※副学長氏名

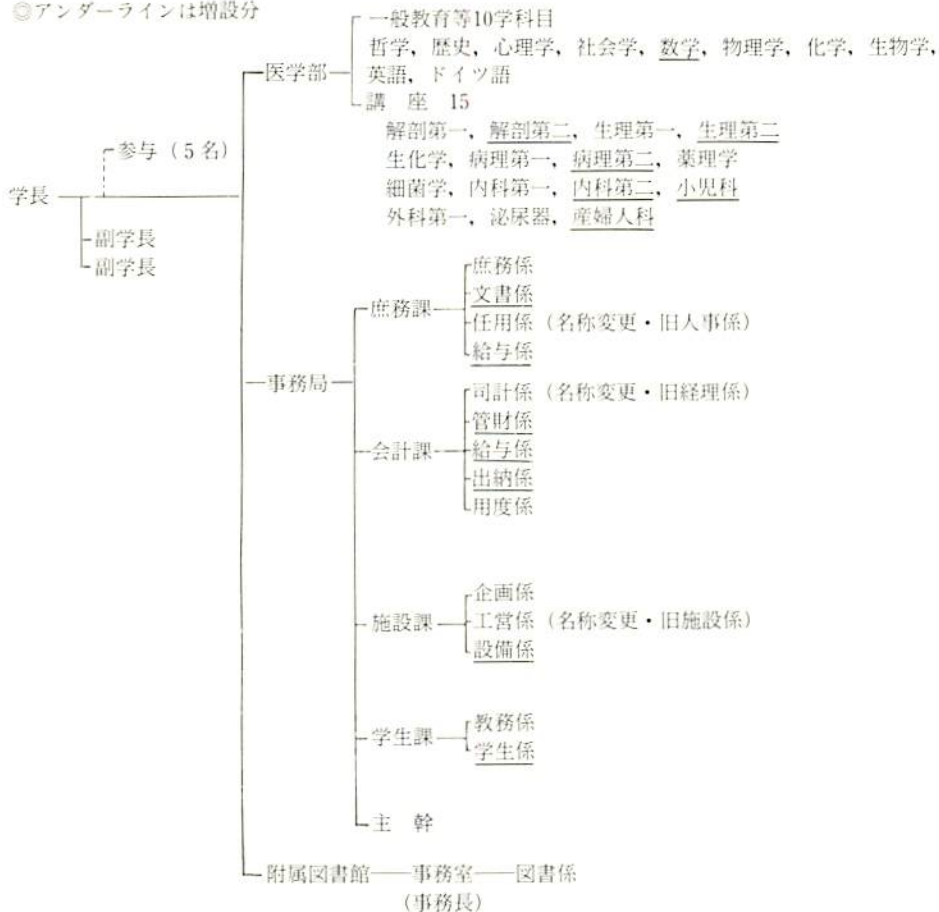
- 教育研究・厚生補導担当 下田 晶久（病理学第一講座教授） 49.10.16付
- 医療担当 黒田 一秀（泌尿器科学講座教授） 49.10.16付

※参与氏名

- 黒川利雄（財団法人癌研究会附属病院名誉院長） 50.2.20付
- 丹羽貴知蔵（北海道大学長） 50.2.20付

日野原重明（聖路加看護大学長） 50.2.20付
 広瀬 経一（北海道商工会議所連合会名誉会頭、
 ④国立旭川医科大学設置協力会会長） 50.2.20付
 盛永 要（旭川商工会議所会頭） 50.2.20付
 昭和49年5月9日校舎一部完成により仮校舎から移転、市立旭川病院からも一部移転

◎アンダーラインは増設分

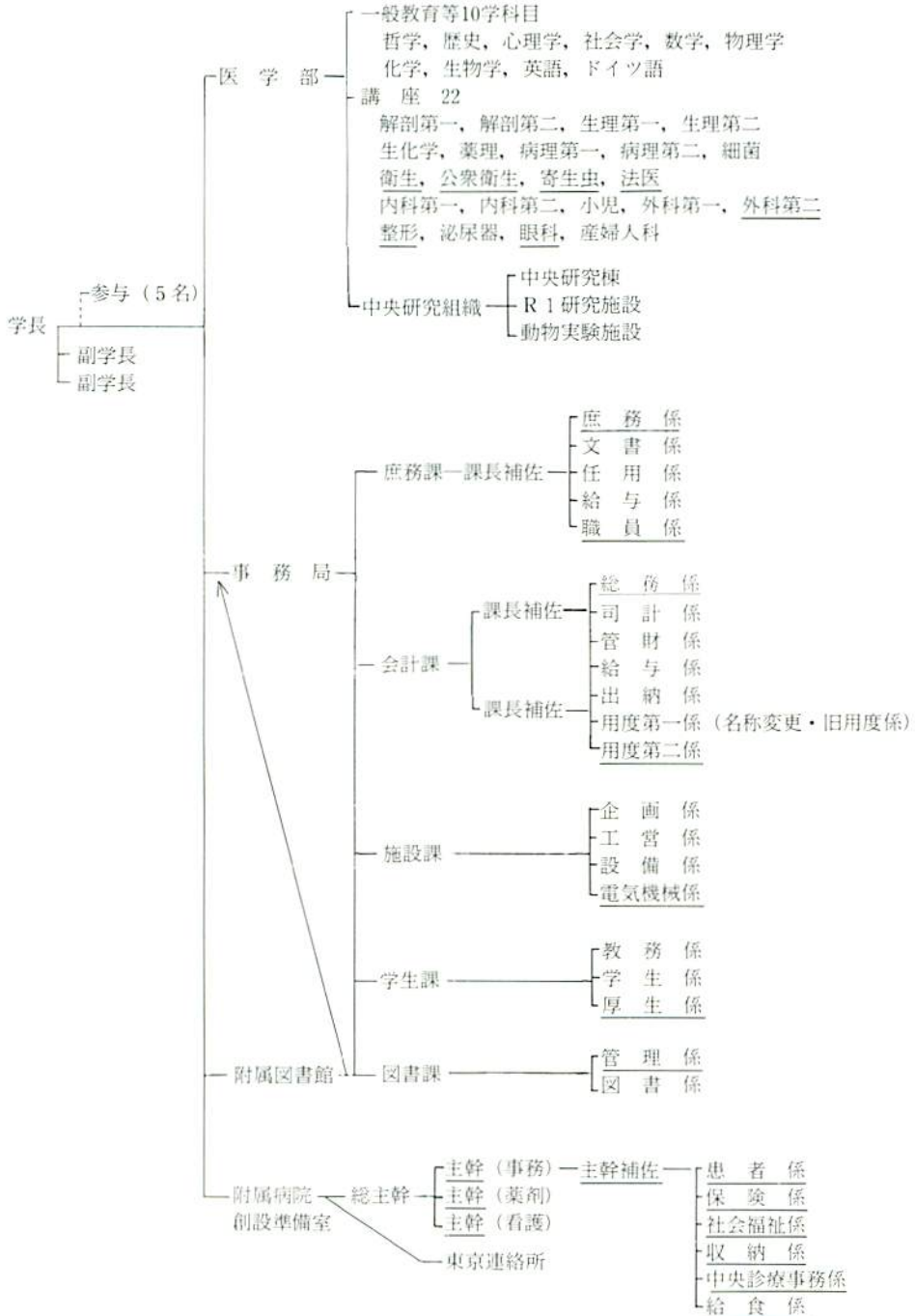


◎昭和50年度

学年進行による講座増 7（基礎4，臨床3）
 事務局の整備 課長補佐の新設 庶1 会2 係の増6
 附属図書館事務室が事務局に統合図書課となる
 附属病院創設準備室が設置される
 総主幹1 主幹3（事務部門，薬剤部門，看護部門）
 主幹補佐1（事務部門）係長6（事務部門），その他各部門の準備要員が配置された
 文部省内に東京連絡所を置き1名配置
 定員は6カ月予算分と12カ月予算分とに分かれた。

基礎・臨床研究棟，事務局管理棟が完成。市立旭川病院を使用していた講座も全て移転した。
 (7月～8月)

中央研究組織として，中央研究棟，R1研究施設，動物実験施設が完成。



◎昭和51年度

学年進行による講座増6（臨床6）

当初の計画が完了

学科目10, 講座28（基礎13, 臨床15）

※生化学第二, 脳神経外科学は昭和52年度以降に増設予定

事務局の整備

部制がしかれる。

部長3, 補佐3, 係長3が増え, 事務局組織は完成した。

局長以下3部, 6課, 7補佐, 30系の事務局一元化組織となる。

附属病院の開設承認51.3.10 329床

附属病院が開設された。

5月10日附属病院が設置され, 附属病院組織がスタートした。

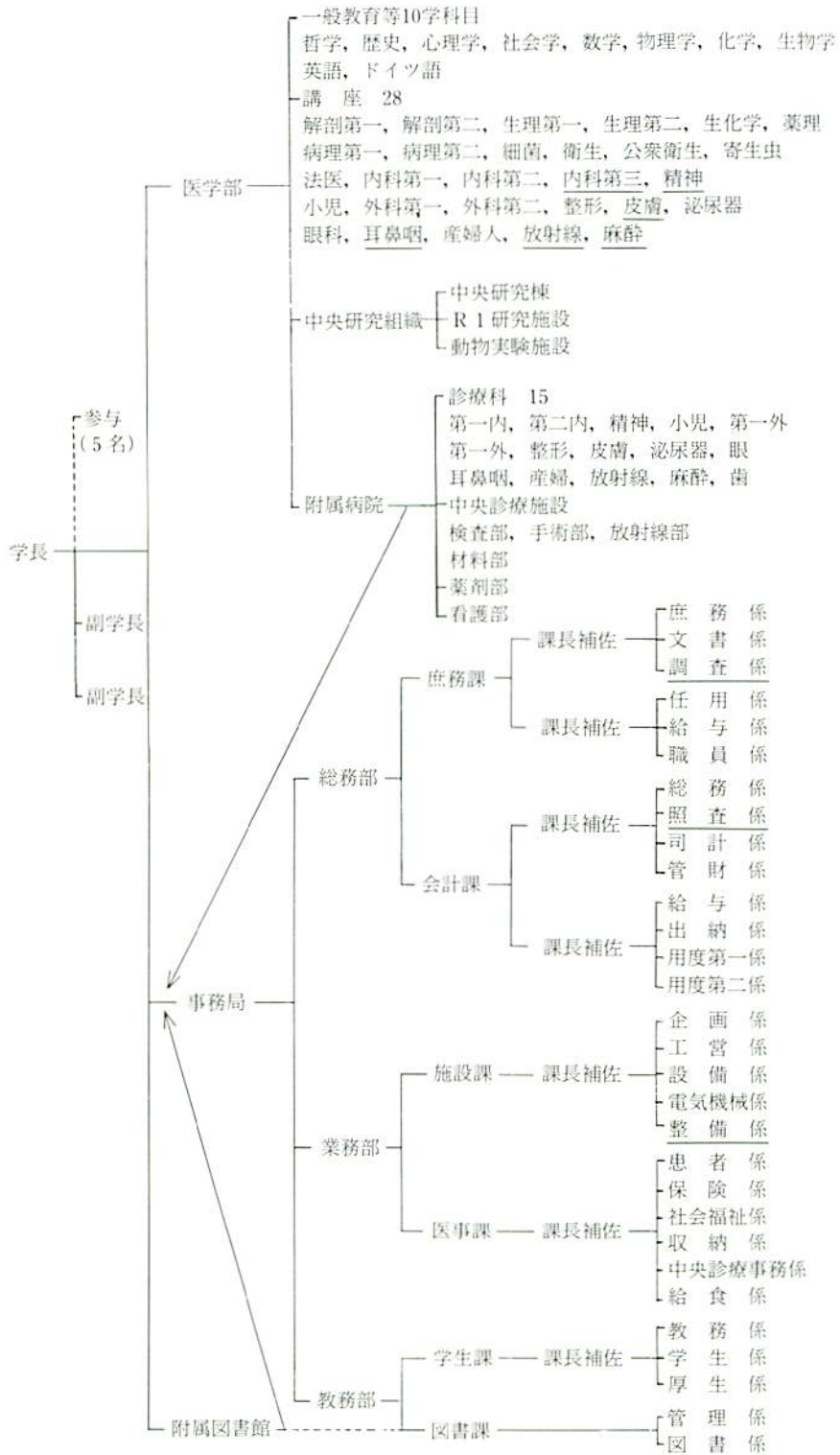
診療科 15 中央診療施設 4 薬剤部, 看護部が予算措置される。病床数は320

診療開始が10月以降となったため看護婦, 検査技師等パラメディカル要員は他国立大学病院に併任することとなった。(本学の併任先は, 北大病院と弘前病院)

附属病院建物への移転 9月24日

附属病院開院祝典 10月26日

診療開始 11月1日 入院は11月8日から初日の患者数71人



◎昭和52年度

2講座が増設され30講座（基礎14臨床16）となった。

（生化学第二講座，脳神経外科学講座）

附属病院に2診療科が設置され17診療科となった。

（第三内科，脳神経外科）

120床増床され病床数は440となった。

系の名称が変更された。

設備係——機械係

電気機械係——電気係

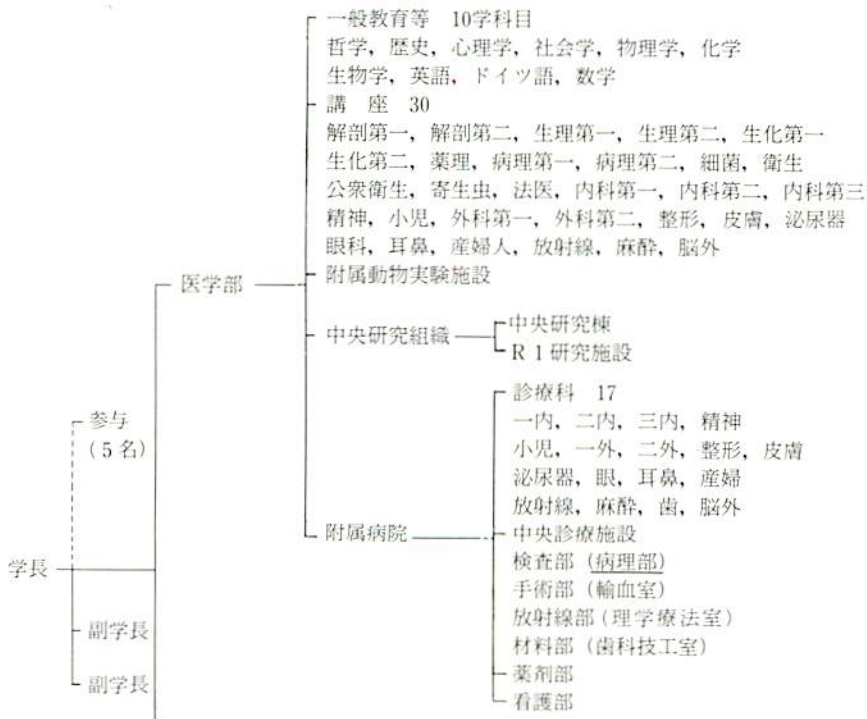
◎昭和53年度

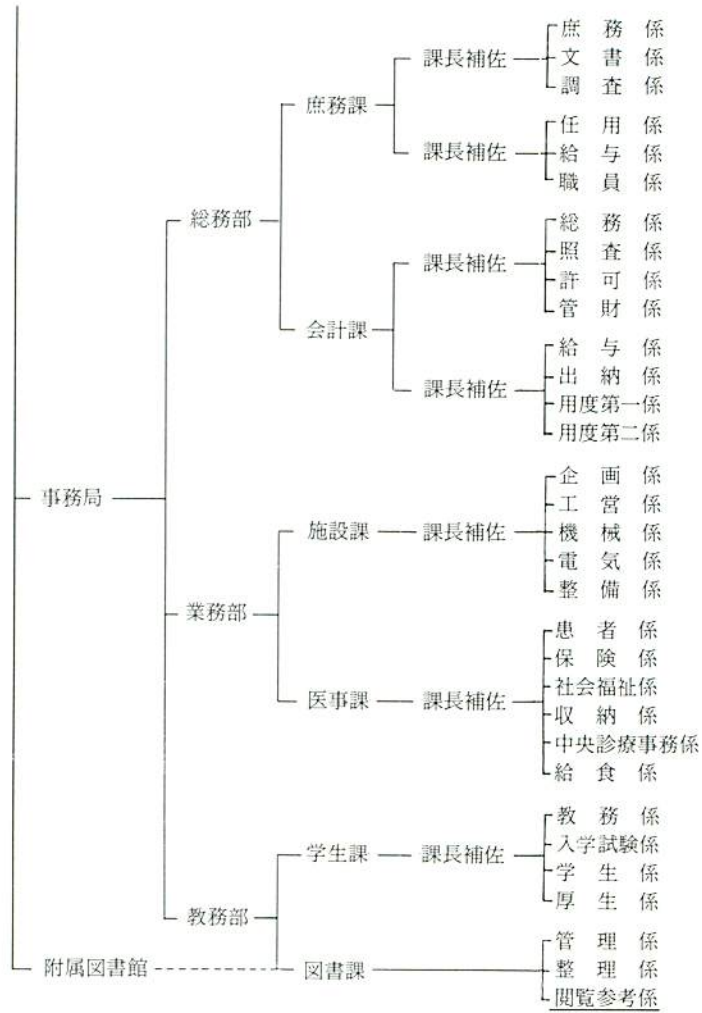
教育実習施設として附属動物実験施設が設置された。

160床増床され，当初計画の600病床となった。

事務局に2係増設された。（入学試験係，閲覧参考係）国立学校分の学年進行が当初予定人員どおり終了。

大学附属病院分は，本年度で全て措置される予定であったが，一部が後年度に繰延べされた。学内的に病理部が独立した。



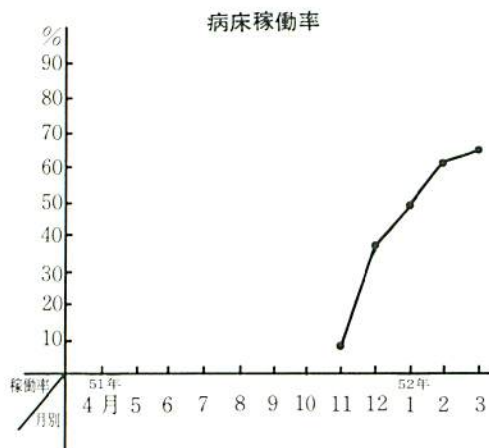
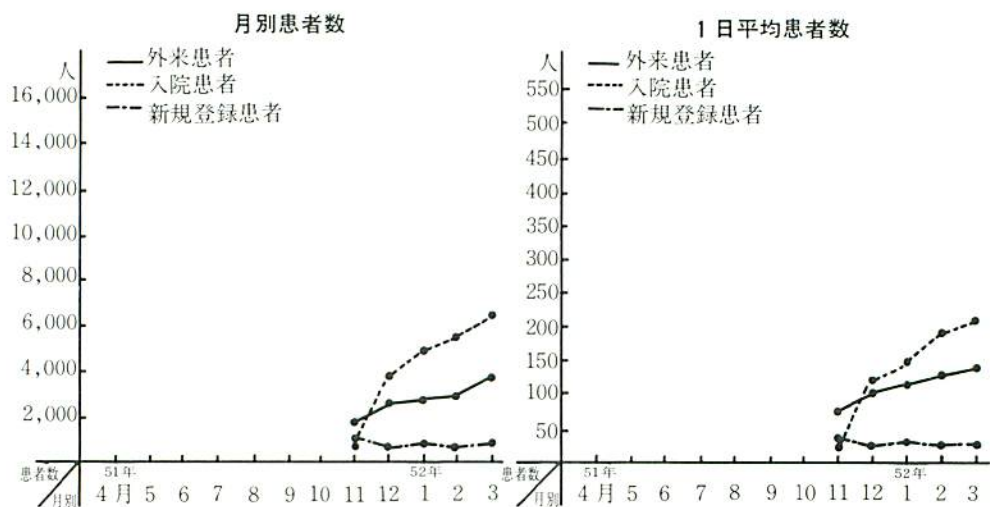


61 旭川医科大学附属病院統計

1 患者数及び病床稼働率

(昭和51年度)

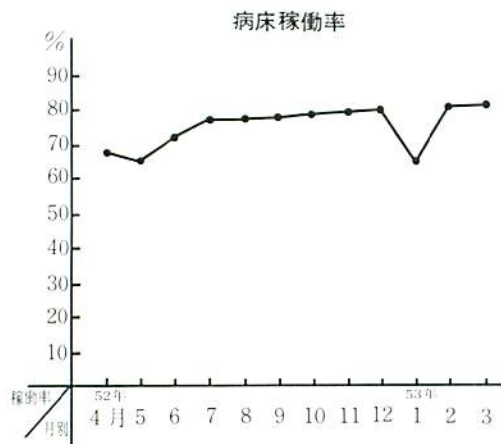
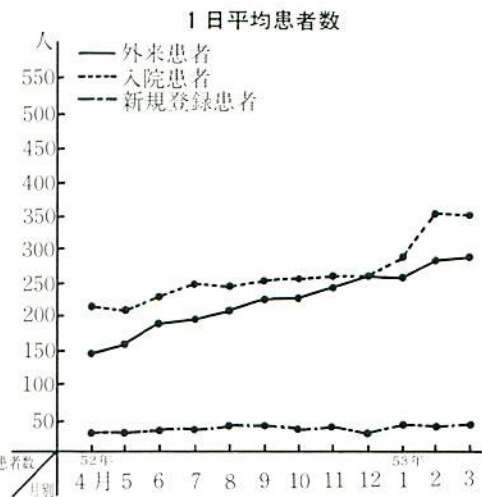
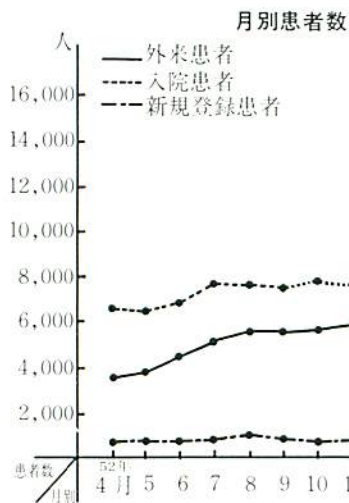
区 分		月 別												4 計	平 均	
		51 4 年 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	52 1 年 月	2 月	3 月			
外来患者	延 数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	診 療 日 数	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
	1 日 平 均 数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
入 院 患 者	延 数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	診 療 日 数	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
	1 日 平 均 数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	病 床 稼 働 率	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
新規登録患者	患 者 数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	診 療 日 数	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
	1 日 平 均 数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人



(昭和52年度)

区 分		月 別												計	平 均
		52 4 年 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	53 1 年 月	2 月	3 月		
外 来 患 者	延 数	人 3,706	人 3,870	人 4,699	人 5,198	人 5,690	人 5,680	人 5,684	人 5,951	人 6,241	人 5,924	人 6,267	人 7,226	人 66,136	人 5,511.3
	診 療 日 数	日 25	日 24	日 26	日 26	日 27	日 24	日 25	日 24	日 24	日 23	日 23	日 26	日 297	日 24.8
	1 日 平 均 数	人 148.2	人 161.3	人 180.7	人 199.9	人 210.7	人 236.7	人 227.4	人 248.0	人 260.0	人 257.6	人 272.5	人 277.9		人 222.7
入 院 患 者	延 数	人 6,554	人 6,495	人 6,818	人 7,758	人 7,611	人 7,485	人 7,920	人 7,669	人 8,038	人 8,885	人 10,196	人 11,182	人 96,611	人 8,050.9
	診 療 日 数	日 30	日 31	日 30	日 31	日 31	日 30	日 31	日 30	日 31	日 31	日 28	日 31	日 365	日 30.4
	1 日 平 均 数	人 218.5	人 209.5	人 227.3	人 250.3	人 245.5	人 249.5	人 255.5	人 255.6	人 259.3	人 286.6	人 364.1	人 360.7		人 264.7
	病 床 稼 働 率	% 68.3	% 65.5	% 71.0	% 78.2	% 76.7	% 78.0	% 79.8	% 79.9	% 81.0	% 65.1	% 82.8	% 82.0		% 75.6
新 規 登 録 患 者	患 者 数	人 700	人 715	人 847	人 864	人 1,050	人 850	人 836	人 858	人 760	人 935	人 775	人 1,043	人 10,233	人 852.8
	診 療 日 数	日 25	日 24	日 26	日 26	日 27	日 24	日 25	日 24	日 24	日 23	日 23	日 26	日 297	日 24.8
	1 日 平 均 数	人 28.0	人 29.8	人 32.6	人 33.2	人 38.9	人 35.4	人 33.4	人 35.8	人 31.7	人 40.7	人 33.7	人 40.1		人 34.5

※病床数は4月～12月まで増床した。



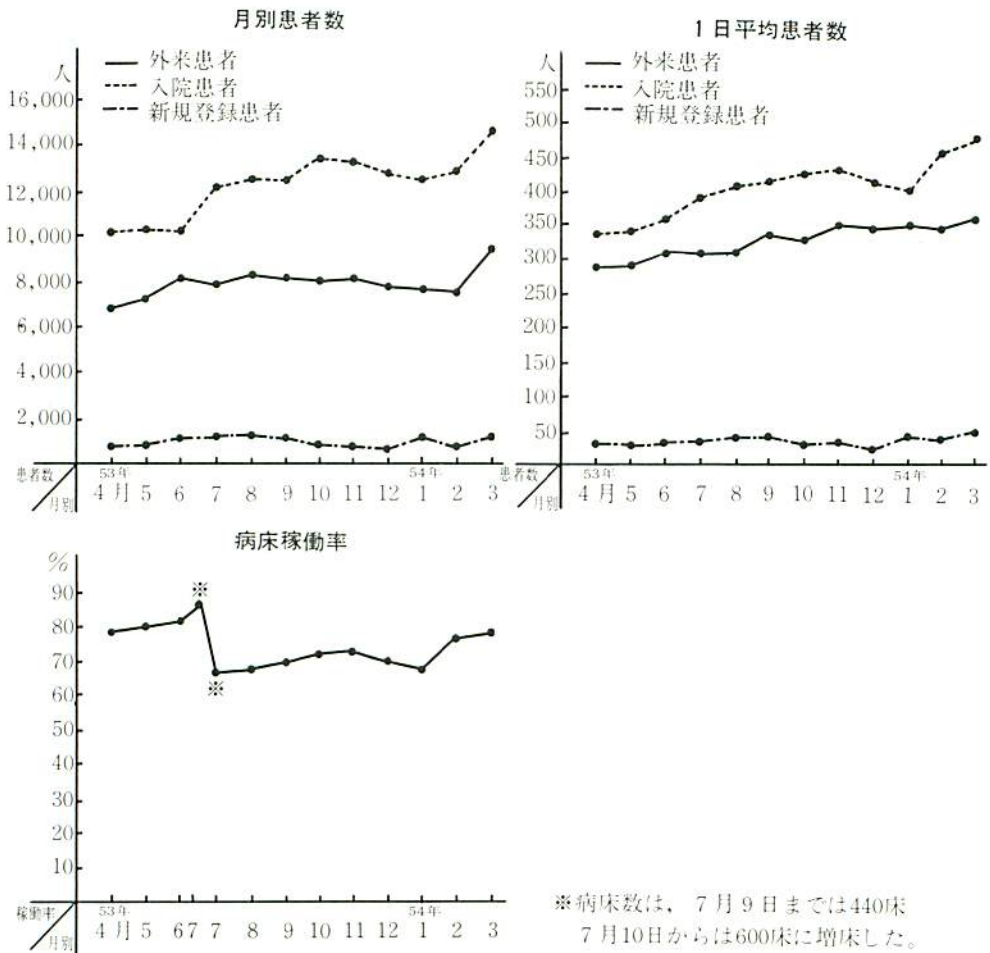
※病床数は、4月～12月は320床
1月からは440床に増床した



(昭和53年度)

区分		月別												計	平均
		53 4 年 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	54 1 年 月	2 月	3 月		
外来患者	延 数	人 6,818	人 7,178	人 8,060	人 7,952	人 8,291	人 8,005	人 8,004	人 8,031	人 7,977	人 7,879	人 7,761	人 9,553	人 95,509	人 7,959.1
	診 療 日 数	日 24	日 25	日 26	日 26	日 27	日 24	日 25	日 24	日 24	日 23	日 23	日 26	日 297	日 24.8
	1 日 平 均 数	人 284.1	人 287.1	人 310.0	人 305.8	人 307.1	人 333.5	人 320.2	人 334.6	人 332.4	人 342.6	人 337.4	人 367.4	人	人 321.6
入院患者	延 数	人 10,431	人 10,817	人 10,788	人 12,168	人 12,581	人 12,452	人 13,394	人 13,120	人 12,819	人 12,424	人 12,863	人 14,623	人 148,480	人 12,373.3
	診 療 日 数	日 30	日 31	日 30	日 31	日 31	日 30	日 31	日 30	日 31	日 31	日 28	日 31	日 365	日 30.4
	1 日 平 均 数	人 347.7	人 348.9	人 359.6	人 392.5	人 405.8	人 415.1	人 432.1	人 437.3	人 413.5	人 400.8	人 459.4	人 471.7	人	人 406.8
	病 床 稼 働 率	% 79.0	% 79.3	% 81.7	^{1-9日} 85.4% _{10-31日} 66.5%	% 67.6	% 69.2	% 72.0	% 72.9	% 68.9	% 66.8	% 76.6	% 78.6	%	% 73.7
新規登録患者	患 者 数	人 925	人 943	人 1,023	人 1,038	人 1,192	人 1,006	人 937	人 920	人 755	人 1,050	人 955	人 1,227	人 11,971	人 997.6
	診 療 日 数	人 24	日 25	日 26	日 26	日 27	日 24	日 25	日 24	日 24	日 23	日 23	日 26	日 297	日 24.8
	1 日 平 均 数	人 38.5	人 37.7	人 39.3	人 39.9	人 44.1	人 41.9	人 37.5	人 38.3	人 31.5	人 45.7	人 41.5	人 47.2	人	人 40.3

*病床数は7月9日までは440床、7月10日からは600床に増床した。



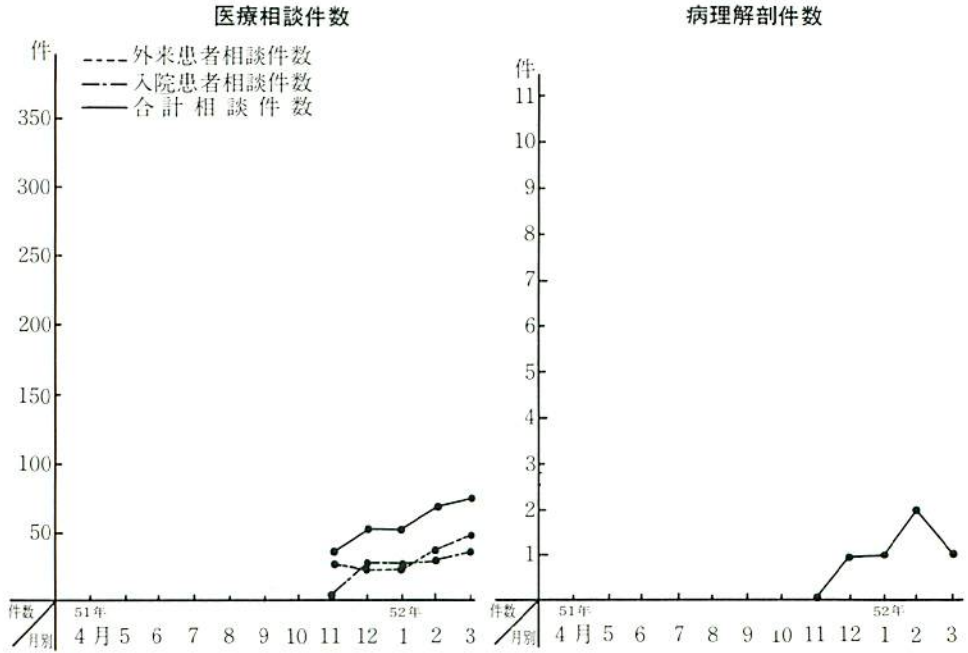
2 医療相談件数及心病理解剖件数
(昭和51年度)

医療相談件数

月別 区分	51年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	52年 1月	2月	3月	計	平均
外来患者	件	件	件	件	件	件	件	28	25	25	40	50	168	33.6
入院患者								4	27	26	31	39	127	25.4
計							32	52	51	71	89	295	59.0	

病理解剖件数

月別 区分	51年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	52年 1月	2月	3月	計	平均
死亡患者数	人	人	人	人	人	人	人	1	3	2	5	4	15	3
剖検件数	件	件	件	件	件	件	件	0	1	1	2	1	5	1
剖検率	%	%	%	%	%	%	%	0	33.3	50.0	40.0	25.0	%	33.3



(昭和52年度)

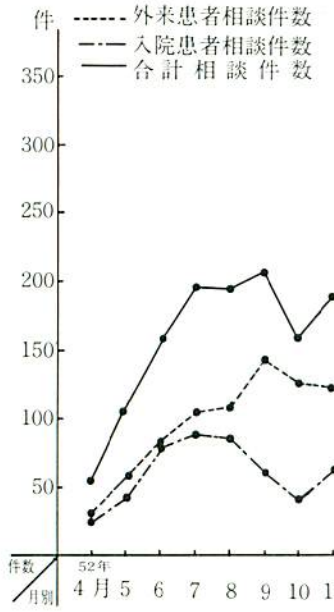
医療相談件数

区分	月別			5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	53年			計	平均
	4月	1月	2月									1月	2月	3月		
外来患者	28	56	82	106	109	147	126	122	123	150	162	190	1,401	116.8		
入院患者	26	47	81	87	83	62	40	65	62	67	116	114	850	70.8		
計	54	103	163	193	192	209	166	187	185	217	278	304	2,251	187.6		

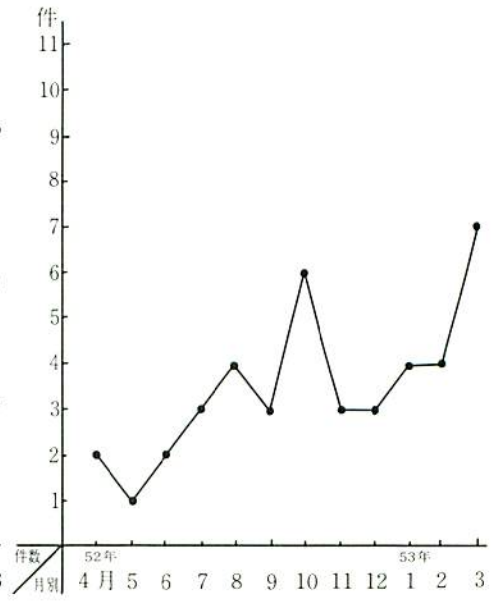
病理解剖件数

区分	月別			5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	53年			計	平均
	4月	1月	2月									1月	2月	3月		
死亡患者数	5	7	5	8	6	9	8	8	6	7	6	9	84	7.0		
剖検件数	2	1	2	3	4	3	6	3	3	4	4	7	42	3.5		
剖検率	40.0%	14.3%	40.0%	37.5%	66.7%	33.3%	75.0%	37.5%	50.0%	57.1%	66.7%	77.8%	%	50.0%		

医療相談件数



病理解剖件数



(昭和53年度)

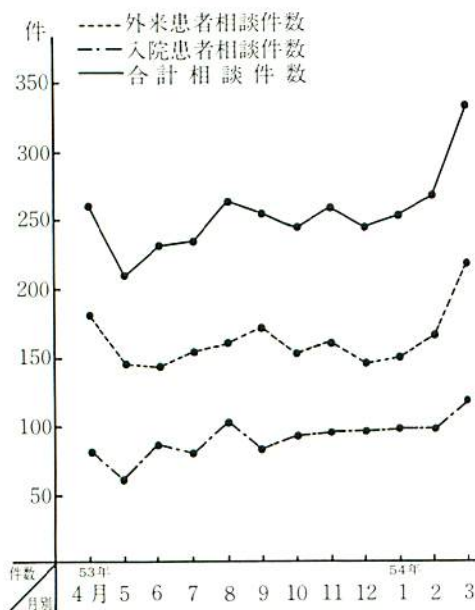
医療相談件数

区分	月別												計	平均
	53 4 年 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	54 1 年 月	2 月	3 月		
外来患者	件 180	件 145	件 144	件 154	件 162	件 172	件 151	件 162	件 145	件 151	件 166	件 217	件 1,949	件 162.4
入院患者	79	65	87	79	106	83	91	96	97	100	99	120	1,102	91.8
計	259	210	231	233	268	255	242	258	242	251	265	337	3,051	254.3

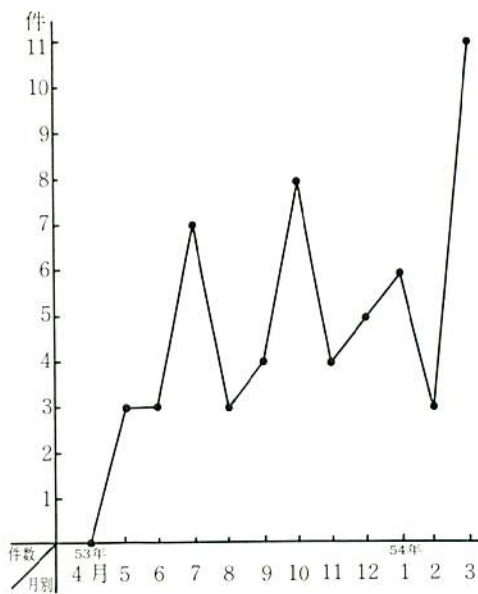
病理解剖件数

区分	月別												計	平均
	53 4 年 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	54 1 年 月	2 月	3 月		
死亡患者数	人 8	人 9	人 7	人 18	人 11	人 13	人 16	人 16	人 10	人 14	人 15	人 19	人 156	人 13
剖検件数	件 0	件 3	件 3	件 7	件 3	件 4	件 8	件 4	件 5	件 6	件 3	件 11	件 57	件 4.8
剖検率	% 0	% 33.3	% 42.9	% 38.9	% 27.3	% 30.8	% 50.0	% 25.0	% 50.0	% 42.9	% 20.0	% 57.9	%	% 36.5

医療相談件数



病理解剖件数



3 修 業 年 限

修業年限は、4年を標準とする。

4 履 修 方 法

4年間の修業年限を前期2年と後期2年に分ける。

各専攻に属する学生は研究指導教官の指定する部門に属し、前期において自専攻共通科目10単位及び所属部門の科目14単位を含む30単位以上を履修し、これによって専攻分野の学問研究の現況を理解し、固有の研究方法について基礎を修得する。将来の研究活動に当り、学際的領域を理解し、広い視野から独創的な研究を行い得る素養の涵養に努める。

前期の教育課程は別紙Ⅰのとおりとする。後期においては、研究指導教官のもとで研究に専念する。

専攻分野は、5のとおり4専攻からなっている。

5 専 攻

(1) 細胞・器官系専攻

生体の基本的構成要素の形態構造と機能、ならびにそれらの発生・分化及び発達の視点に立って研究を進め得る研究者を育成する。方法論としては形態学的手法と生化学、分子生物学的手法が主として用いられる。

(2) 生体情報調節系専攻

有機的に統御されている生体機能を多角的に分析し、統合的に考察し得る研究者を育成する。方法論としては主として生理学的、生化学的手法が用いられる。

(3) 生体防御機構系専攻

各種病因とそれに対応する生体の防御機構を分析し、洞察し得る研究者を育成する。主として微生物生理学、生化学、血清学、免疫学等の手法が用いられる。

(4) 人間生態系専攻

環境と疾病の関係を究明し、生態学的視点から人類の生活環境を医学的、社会学的に考究し得る研究者を育成する。

6 教 員 組 織

各専攻を構成する教員組織は別紙Ⅱのとおりとする。

7 学 生 定 員

入学定員30名、収容定員は120名とする。

細胞・器官系専攻 9名、生体情報調節系専攻 14名、生体防御機構系専攻 5名、人間生態系専攻 2名

8 学 位 の 授 与

(1) 学位の種類は医学博士とする。

(2) 博士の学位は大学院に4年以上在学し、30単位以上を修得し論文審査および試験に合格した者に与える。

(3) 大学院の課程を経ない者についても博士論文の審査、試験により大学院の課程修了者と同等以上の能力と学識を有すると認められた者には学位を与える。